

2018年9月21日

大津市長
越 直美 様

大津市障害者自立支援協議会
会長 藤木 充
ショートステイ連絡会
部会長 柴田 雄一

ショートステイ連絡会

単独型ショートステイの運営に関わる家賃の補助に関する提言

1. はじめに

大津市内には現在知的障害の方を対象にした、3ヶ所のショートステイが整備されている。むくの木は中軽度の知的障害の方が対象としており、ステップ広場ガルと伊香立の杜は主に重度の知的障害の人を対象にしている。

家族の介護負担軽減、自立に向けた経験やスキルの獲得、そして緊急時等の一時生活先としてショートステイの利用ニーズは大変多く、大津市内の事業所はどこも利用定員いっぱい状況が続いている。

また、身体障害や精神障害の方のショートステイは市内に1か所も整備されておらず、他圏域のショートを利用してしている状況である。

2. 提言の背景

①単独型ショートステイの運営の課題

ショートステイは宿泊を前提とした3つの運営形態に現在なっている。1つ目はステップ広場ガルのように入所施設に併設された事業所、2つ目はびわこ学園のように入所施設内の居室を利用した空床利用型事業所、3つ目はむくの木や伊香立の杜のような単独型事業所である。

今後のショートステイの整備に当たっては施設内の整備は困難であり、ショートステイ単独での整備が必要である。

しかし、単独型ショートステイはグループホームと違い家賃収入等が無く、施設の整備及び確保に関する資金の調達に介護給費の報酬だけでは困難な現状がある。

現在、大津市内の中軽度の知的の方を対象にした単独型のショートステイ事業所であるむくの木が移転を迫られているが、移転先を探すに当たり、物件の確保が困難で困っている。

②むくの木運営の経過と圏域内で果たしてきた役割

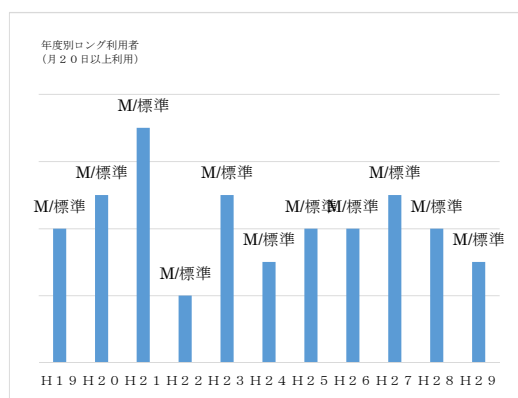
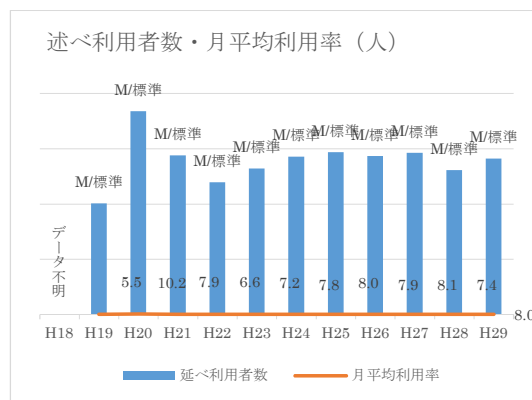
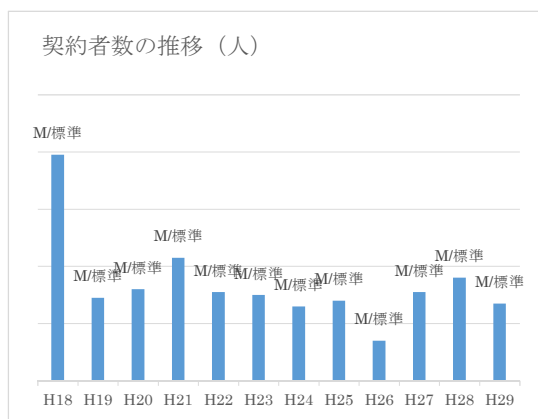
②むくの木運営の経過と圏域内で果たしてきた役割

ショートステイむくの木は建築基準法の問題（接道がない）のため、現在の場所で運営継続していくことが困難となっており、早急な移転場所の確保が必要となっている。

ショートステイむくの木は平成18年4月に定員10人で開所。当初から利用者は中軽度の知的障害のある人を中心としており、将来地域の中で自立生活を送れる力を身につけることや介護者の負担軽減などを主な目的としてきた。最寄りの栗津駅から徒歩5分という好立地にあるため自主通所をする人の割合も多く、住宅街の中にある利点を生かし、グループホームへのステップになることも視野に入れ家庭の延長になるようアットホームな雰囲気づくりを重視してきた。

現在契約者数は通算400人を超え、毎月約90人の定期的な利用があり、1日平均は7～8人の利用率となっている。開所の翌年以降も毎年コンスタントに契約希望者があり、利用者は大津市在住者が中心だが平成23年度からは短期入所施設が少ない近隣地域からの利用希望者も増加、特に草津市在住者は現在32人となっている。

開所当初から家での生活が困難で行き先が見つからない人の受け皿としての役割もあり、月に20日以上宿泊するロング利用者はH19年～現在までに延べ25人を数え、月15日以上利用のロング予備軍を入れるとさらに人数は増える。4人のロング利用者を同時期に受け止めていた年（H19～20年）もあったが、ロングと言っても1か月程度から数年に及ぶケースまであり、1年以上利用継続した人は5人で最長は3年（H25～28年）を超えての利用もあった。これらの人のうち半数以上はその後ホームに移行している。開所から12年を経過し、この間に虐待防止法が施行され行政や虐待防止センター、相談支援事業所からの被虐待ケースの緊急受け入れ要請も年に幾度となくあり、関係機関が連携して支援へという流れも整備されてきており、ショートステイが障害のある人たちが地域で生活するための重要な役割を担っていると言える。



数年ごとに実施している利用者へのアンケートでも、『むくの木はどんなところか?』（平成27年度実施）という設問に対し、回答84件のうち上位に「楽しい場所」、「出会いの場」、「くつろげる場所」、「集団生活を経験する」、「自立に向けての練習の場」というものがあり、『むくの木を利用しての変化』（同）という設問には「食器洗いができるようになった」、「一人で眠れるようになった」、「お手伝いできるようになった」、「食事づくりの手伝いができるようになった」、「人間関係がひろがった」との回答があり、むくの木の利用が本人や家族にとって何らかの意味のある経験になっていることがわかる。

③むくの木移転に際して求められる条件と課題

むくの木に移転場所に適した環境として、半数近い利用者が自主通所するため最寄駅から徒歩圏内が望ましく、できれば車通りも多過ぎない立地、近隣への迷惑にならない程度に敷地面積に余裕があり、送迎バスやヘルプでの利用も考慮した十分な駐車スペースがあること、バリアフリーの屋内で各部屋の配置は出来るだけ職員の目が行き届きやすいことが求められる。

現在むくの木は築34年で、企業の社員寮だった賃貸物件を利用、隣接する栗津ホーム込みで月17万5千円という破格の賃料（仲介業者の話ではむくの木の前規模だと通常は月50万くらいの賃料とのこと）で、行政からの補助金はなく主たる収入を介護報酬に頼って運営している。むくの木は、単独型ショートステイで、さらに中軽度の人を主な対象としているため介護報酬は低めで、短期入所加算、単独型加算、食事提供加算といったそれぞれの加算と安い家賃があつてこそ継続した運営が可能となっている。

ショートステイの性質上、収入の元になる利用率は一定せず、急な利用キャンセルも発生するなど毎月の収益の変動が大きい反面、常に要件に則った人員配置（利用者6人までは支援員1人、7人を超えて6人を超す毎に支援員1人増）の確保が必要であり、人件費、光熱費、食材費など最低限の支出を抑えることは難しい。

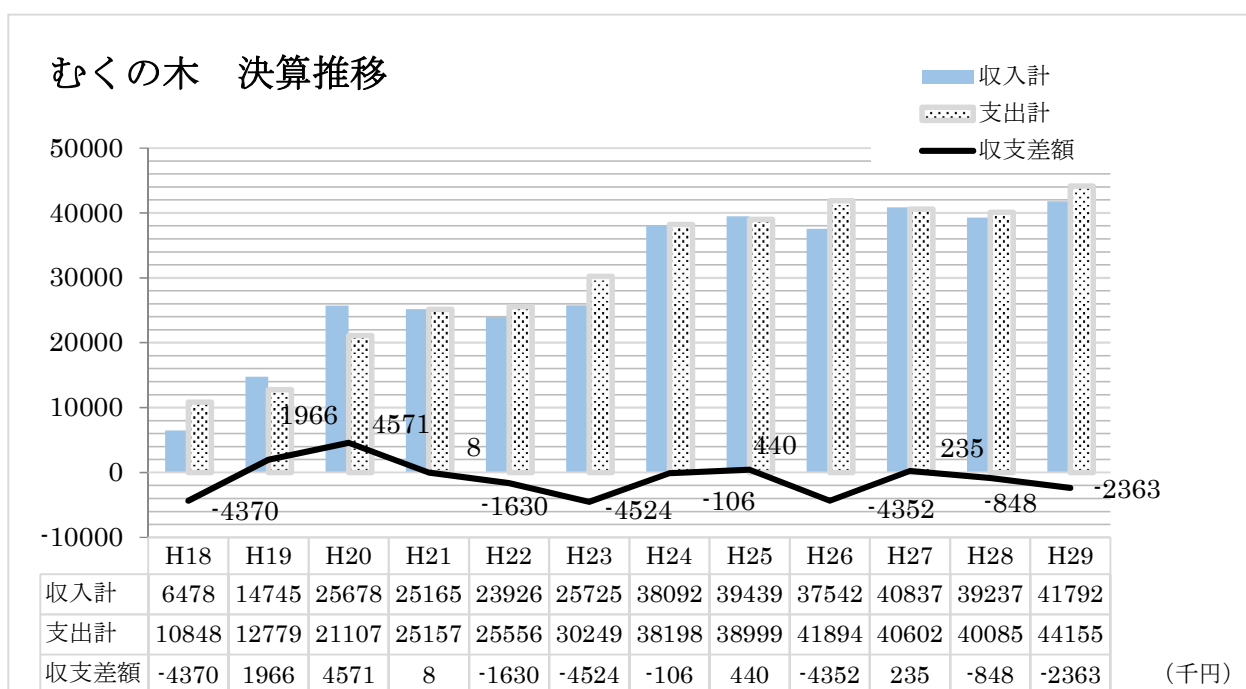
決算推移グラフの収支差額にみられる通り、この12年間のうち黒字運営になったのは5年のみで黒字と言ってもほぼ微々たる金額に留まっている。目立ったところでは、H20年の黒字は大幅ではあるが、その要因として1年以上のロング利用者が4人重なり利用率が高い反面、職員体制が十分整備されない面があり人件費支出が抑えられていたことが考えられる。H24年以降は前年までに比べ利用率の増加がみられるが、この年から制度が変わり、それまでの定員10人を1人で支援していた宿直から夜勤勤務へと体制の変更があり、支援員の増員が必要になったため支出も大きく増えている。また、様々なケースに柔軟に対応できるよう体制強化を図る目的でH26年には正規職員を1人増員、さらにH29年にも常勤職員を1人増員したため人件費支出は増す一方になったことが支出に大きく反映されている。

むくの木を移転して運営を継続するためには、利用者が今まで通り自主通所でき、安心して過ごせるよう環境的配慮のされた場所と安定的な運営ができる財源の確保が大きな課題となっている。むくの木の前移転場所が幸いにして確保できたとしても、現在のような安い賃料であることは考えにくく、継続的な運営のため、むくの木を日中事業所と同様に家賃補助の対象としていた

だきたい。

決算推移グラフの収支差額にみられる通り、この11年間のうち黒字運営になったのは5年のみで黒字と言ってもほぼ微々たる金額に留まっている。目立ったところでは、H20年の黒字は大幅ではあるが、その要因として1年以上のロング利用者が4人重なり利用率が高い反面、職員体制が十分整備されない面があり人件費支出が抑えられていたことが考えられる。H24年以降は前年までに比べ利用率の増加がみられるが、この年から制度が変わり、それまでの定員10人を1人で支援していた宿直から夜勤勤務へと体制の変更があり、支援員の増員が必要になったため支出も大きく増えているし、H26年は、様々なケースに対応できるよう体制強化を図り正規職員枠を1人増員したため人件費支出が増となったことが反映されている。

むくの木を移転して運営を継続するためには、利用者が今まで通り自主通所でき、安心して過ごせるよう環境的配慮のされた場所と安定的な運営ができる財源の確保が大きな課題となっている。むくの木に移転場所が幸いにして確保できたとしても、現在のような安い賃料であることは考えにくく、継続的な運営のため、むくの木にも日中事業所と同様に家賃補助が必要である。



※H19年、23年、24年、26年、28年、29年は区分間繰入による3～400万円込みの数字となっている。

3. 提言の内容

天津市障害者自立支援協議会では住まいの場の取りまとめ会にて入所施設及びホームの利用希望者の集約をしているが、待機者が平成30年9月時点で167人となっている。希望される方が右肩上がりの状況である。

しかし、現時点で住まいの整備はニーズに追いつかない状況であり、ショートステイを利用して在宅生活をぎりぎりで維持している方も多く、今後の希望者は介護者の高齢化等を考えると増えることが予測される。

また、家族から離れて暮らす経験を積む場としてショートステイは大きな役割を担っている。

そのような状況の中、現状の大津市内 3 ヶ所のショートステイでは今後ニーズに対応することは困難である。まして、むくの木がなくなることは大津市内の障害のある方の暮らしにとって地域生活の継続が厳しい状況に置かれてしまいます。

むくの木の存続及び短期入所施設の整備を促進するためにも、大津市から単独型短期入所施設に対して家賃補助を認めていただきたい。併せて、土地や物件の確保に関しても大津市の協力をお願いしたい。